

# 音の散歩路

## ～風鈴について～

金沢工業大学 建築学部建築学科

教授

土田 義郎



### 風鈴の起源

古代中国では様々な占いによって<sup>まつりごと</sup>政を決めていました。その一つに音による占いがあります。それが<sup>せんぶうたく</sup>占風鐸です。竹林に風鐸を吊るし、風に吹かれて鳴る音によって占いを行ったといわれています。

光によって闇に潜む魔物が退散するのと同様、音は無音の恐ろしい世界からの結界となるものでした。キリスト教社会でも教会の鐘の音が聞こえる範囲が一つのコミュニティとされています。風鐸は寺院の軒先に吊るされて魔除けの役割を担っていました(図1)。風鐸は仏教とともに日本に伝わり、平安のころには貴族が自邸にも風鐸を吊るしたといわれています。現在も寺院の軒先には風鐸が吊るされていること



図1 寺院の風鐸(富山県石動観音寺)

が多いです。その音を聞くことはめったにありませんが、強い風が吹くと「ガラン、ガラン」と鳴ります。

江戸時代になり、ギヤマンの技術が伝来すると、それによってガラスの風鐸が作られます。江戸風鈴の誕生です。庶民は住まいの中に魔除けとして風鈴を取り入れるようになりました。それはやがて涼を感じる装置へと徐々に変わりました。

多種多様な風鈴が作られるようになったのは、昭和以降です。生活に必要なものしか作る余裕のなかった時代から、遊び心のあるものが作られるようになるには技術の進歩と、豊かさが必要条件であったと思います。また、日本人は海外から取り入れたものを独自に発展させ、多様化させることに長けています。ラーメンもカレーも中国やインドよりも多様に発展しています。日本人のこういった特性が風鈴の特異的な発展に関与していると考えています。現代では、メーカーも個人作家もいろいろな風鈴を作り、我々の生活に彩を与えています。

### 風鈴のいろいろ

近代になると金属を鑄込む技術が進歩し、釣り鐘型の風鈴が多く作られます。風鈴の起源の風鐸は銅と錫の合金の青銅製でした。現在も青銅製の風鈴は小田原などで作られています。銅・錫・鉛の合金は<sup>さはり</sup>砂張という合金になります



図2-1 砂張の風鈴（柏木美術鑄物研究所）



図2-2 砂張の風鈴（魚住工房）

（図2-1）。釣り鐘型にした風鈴は、梵鐘と同じように長い余韻の中にうなりがはっきりと聞こえます。人間国宝の初代魚住為楽氏（1886-1964）は銅鑼の制作で知られますが、近世以来の古典的な製法で砂張の風鈴も作っています。三代目の現為楽氏もその製法を受け継がれています。漆による仕上げを施しているためか、砂張の地金そのものを生かした小田原風鈴よりも余韻は短いのですが、芯のあるしっかりとした音が特徴です。図2-2は魚住工房にて制作された初代から続く伝統的な形の風鈴です。

岩手県の名産品の南部鉄器で作られる風鈴は、南部風鈴と呼ばれています。風鈴の中では比較的安価にたくさん作ることができるので、日本で最も普及している風鈴だといえます。南部風鈴をパーツとして用い、付帯する装飾で、オリジナリティを出した風鈴も多くあります。図3は金沢の水引専門店で作られている水引風



図3 水引風鈴（津田水引折型）



図4 江戸風鈴 (篠原風鈴本舗)

鈴です。

南部風鈴とともによく知られているのが江戸風鈴です(図4)。江戸風鈴は宙吹きガラスで作られた風鈴です。「カラン、カララン…」と硬質な音がします。縁の部分はあえてギザギザを残しています。これは風の方向の揺らぎで中に吊るした舌(江戸風鈴の場合はガラス管)が左右に動いたときに、音が鳴りやすくなるためといわれています。現代のガラス作家もそれぞれ個性的な風鈴を作っています。江戸風鈴より厚いことが多く、音はキンキンとした響きになりがちです。ガラス自体の色や意匠に工夫を凝らした美しいものが多いです。

焼き物が盛んな土地では陶磁器による風鈴も作られています。有田焼、伊万里焼、砥部焼、常滑焼、瀬戸焼、美濃焼、備前焼などの風鈴を所有していますが、形も大きさも色も様々です。粘土は手で自由な造形が可能であるのでバラエ



図5 火箸風鈴 (明珍本舗)

ティ豊かなものが各地で作られています。硬質な磁器はガラスと同じような音になります。陶器は磁器より若干柔らかく丸みを帯びた音になります。

風鈴は釣り鐘型だけではなく、棒を吊るしたチャイム型のものもあります。その場合も棒を一行に並べるのではなく、中央の舌を取り囲むように並べるものが多いです。代表的なものに明珍火箸風鈴があります(図5)。平安時代から続く明珍家は戦国時代には甲冑を作っていましたが、江戸時代には茶道具を作るようになり、戦後になってから鍛鉄の火箸を吊るした風鈴を作るようになりました。火箸なので均一な太さではなく、そのため複雑な振動となり、幽玄な響きが大きな特徴です。

紀州備長炭はウバメガシを原料とした炭で、調理や脱臭を目的として広く使われています。茶の湯で使われるクヌギを原料とした黒炭より



図6 備長炭風鈴

も密実で硬いので、たたくと少しかすれたような金属的な響きになります。細長いものを並べて舌と短冊を付けた風鈴は、見た目にも地味で大きな音は出ませんが、微かなその響きはとても趣があります(図6)。

バリ島(インドネシア)には、竹製の木琴を使ったジェゴグというガムラン音楽があります(図7)。これを吊るして風鈴にしたものは民芸品として日本でも売られています。エスニックなムードを醸し出すものとして、飲食店などのインテリアとして使われています。音はころころとしたかわいらしい音です。竹は獣害対策のための鳴子として使われていたため、日本の民芸品にも竹製の風鈴があります。これも丸っこくかわいらしい音がします。

### 風鈴のイベント

東京浅草のほおずき市や朝顔市では風鈴も売



図7 竹風鈴

られています。つりしのお風鈴にすることが多いようです。「しのお」というのはシダの一種。苔玉のように団子状の土台にしのおを植えつけて、その下に風鈴を吊るしたものがつりしのお風鈴です。江戸時代より庶民の園芸として親しまれています。なぜほおずき市で風鈴が売られるようになったのか、理由は定かではありません。

風鈴を主役とした市として最も歴史があるのは、川崎大師(神奈川県)の風鈴市でしょうか。全国各地の風鈴が展示され、販売されています。それでもまだ2018年の開催で第23回です。ここでは風鈴に名前を描きこんでくれます。申し込み必須です。

川越氷川神社(埼玉県)では、2014年から夏季の2か月間「縁結び風鈴」という行事を行っています。期間中は境内に色とりどりの2,000個以上のガラスの風鈴が飾られます。風鈴の短



図8 かなざわ風鈴ワークショップ

冊には願い事を書くことができます。風鈴の音色が想いを届けてくれるのでしょうか。インスタ映えするのでしょうか「#風鈴」で検索すると縁結び風鈴の写真がたくさんヒットします。

池上本門寺（東京都）では「500個の風鈴の音を聴く」というイベントを行っています。これは参加型のイベントで、地元の人や観光客が短冊に願い事を書き、風鈴に結び付けて展示するというものです。風と共に一斉に鳴り響く風鈴の様は幻想的ですからあります。

筆者が考案した「かなざわ風鈴」は真鍮のパイプに五円玉が当たることで澄んだ音が響きます。周囲は6枚の和紙で囲まれ、従来にない形となっています。この風鈴を作るワークショッ

プは、市内の寺院などで2012年の発案以来夏に行われています（図8）。

そのほかにも各地で風鈴を展示するイベントは、あちらこちらで行われるようになってきました。ちょっとした風鈴ブームのように感じます。まだまだ歴史は浅いのですが、これが50年、100年と続くことでやがて伝統行事と呼ばれるようになることでしょうか。

### 現代の風鈴と音風景

「どの風鈴が一番いい音がしますか」という質問を受けることがあります。これは答えることができない質問です。音楽でもジャズが好きだったり、クラシックが好きだったり、好みは人それぞれです。自分の好みにぴったりする音を探すのも風鈴の愉しみの一つです。

風鈴は軒先に吊るすのが常識でしたが、密集した住宅地や集合住宅では風鈴の音も騒音になりかねません。本来は軒先に吊るして楽しみたいところですが、昨今の事情から室内の窓辺に置くなどの対応が求められています。室内に飾るための風鈴用の掛け台もいろいろなものが作られています。時代に応じてその在り方は受け入れられるように変わらざるを得ないのかもしれませんが、日本の夏の音風景はこれからもずっと守って行きたいものです。